

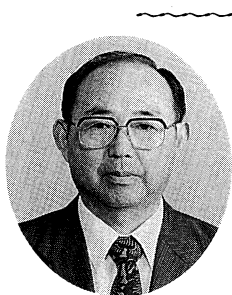
なになんてどこに出ても恥ずかしくないような食事の習慣・マナーを身につけさせてあげたい、という大望を持って毎日仕事に励んでも、がんばればがんばるほど壁にぶつかり、(どうしてこんな職業を選んではまったんだらう。やめようかな。)と考えたこともありました。

でも、そんな時いつも励ましとなったのは、「先生、今日の○○うまかったよ。まただしてね。」「先生、野菜は体にいいんだよね。ピーマン嫌いだったけど今日少し食べたよ。」などと声をかけてくれる子供たちの笑顔でした。

そんなすてきな子供たちの中に特にがんばり屋の子供、K君とSさんがいました。母親は小学校にあがるまでほとんど野菜が食べられないふたりの給食に不安を持っていました。しかし、ふたりはがんばってみたいという気持ちで、今日はせんきヤベツを一本、次は二本と毎日少しずつ増やして食べられるようになりました。その勇気とがんばりに私もつい涙したこともあり、(子供たちだつてがんばっているんだ、私だつて。)とどんなに元気づけられたかわかりません。

幸いなことに私は二校とも小規模校勤務であり、子供たちと給食だけでなく学校生活の色々な面で接する

ことができました。月末で献立作成の間にあわないとき、調理室の方が忙しいときなどわずらわしいなと思うこともありすが、そんなときこそ子供たちの本当の姿を見ることができ、給食指導に役立てることができ、給食の献立にも小規模校ならではの



Osikirigawa hukin

三 留 昭 男

Ground de

Kûki ga hukkurato atatakai.
Kokkyô no Yuki no Yamayama wa kasunde iru.
Mori, Ie, Hiroi Ground.
Net no sobani Uniform ga ugoite iru.
Koegoe ga Kûki no nakani hibiku.
Hitotu hitotu meiryôni kiki-wakerareru.
Haru da na ! Haru da na !
Hiroi, akarui, ôkina Sekai da na !

— Osikirigawa hukin

手作り食、郷土食を多く取り入れることができました。
そんな忙しい毎日の中で、最近うれしいことがありました。以前の父兄から「娘が、陽子先生と同じような食物栄養を学びたいといつて、うちの方の学校に進みましたよ。」と聞かされたことです。よく、教師み

ようりに尽きるということ聞きませんが、私の場合学校栄養士みよりに尽きるということでしょうか。
さあ、また明日からがんばろう。
「先生、うまかったよ。」の音が聞けるように。

(伊南村立伊南小学校栄養士)

これを、現代語になおすと、次のようになる。

グランドで

空気がふつくらとあたたかい。
国境の雪の山々は霞んでいる。
森、家、広いグラウンド。
ネットのそばにユニフォームが動いている。
声々が空気の中に響く。
ひとつひとつ明瞭に聞き分けられる。

春だな！ 春だな！
広く、明るく、大きな世界だな！

—「押切川付近」より

十数年前、本校第二十二代校長田中貢氏(昭和十三年、本校旧中第十六回卒)に見せていただいたローマ字詩集「Osikirigawa hukin」の一篇である。